

令和4年第3回北海道議会定例会〔予算特別委員会・建設部所管〕開催状況

開催年月日 令和4年9月30日(金)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 担当部課 建設部土木局道路課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>三 道道名寄遠別線について</p> <p>(一) 増額要求の根拠について 議案第19号の道道名寄遠別線のトンネル工事費の増額についてです。これまでこの路線に関しては私は、代替道路があることや費用対効果が低いことを示して、道路建設自体の必要性とともに、今後増額することなく工事を終了させるように求めてきた訳ですけれども、今回なぜ増額を要求したのでしょうか。</p> <p>(二) 完成までの予算の見直しについて 北海道の場合は、掘れば脆弱な岩盤が出てくるというのは当然のことなものと、今答弁にありましたように、コンクリート単価が上がっていることで工事費が上がるんですよ。先ほどのペーバン川のダムについてもね、よくこのところを考えておいていただきたいと思います。</p> <p>それでやはりこの旧開発道路の工事というのは、走り出したら止まらない公共事業の典型で、本当に化石のようなものではないかと思っています。今回の増額ですとね、宇遠別トンネルの費用というのは国葬の倍以上の費用になる訳です。最小の投資で最大の効果を得るのが税金使用の原則です。事業の優先性の考え方、完成までにどれほどの税金を投ずるのか見合う効果をどう見通しているのか、中止の選択を含めて冷静に議論すべき時ではないかと考えますが、あわせてお聞きします。</p> <p>着実に推進するということはですね、30年以上誰1人として通ったことのない道路ですよ。そこに着実に推進すると言いながら何回も計画変更して、完成が延期をされて工事費が増額すると。こういうことをいつまでも続けて良いのかどうかと思いますよ。河川整備の方は予算が足りなくて困っていて被災している人が次々と出ているのに、誰1人も通っていない道路を30年以上にも渡って工事をすることによって本当に理解が得られるのでしょうか。私はね代替道路があることを前提にお話をしているのです。この地域は人口減少が進んでいて、20年間で77%～82%位まで人口が減っています。これから除雪費をどうするのか、冬季も開けるとい道路ですから、それから古い施設はもう老朽化して壊れはじめています。さらに加えて交通量も本当に増えていくのか、資材費の高騰はどうなるのか、こうしたことも冷静に考えて対応していただきたいと思います。同じ旧開発道路の上川富良野線は幻の道路、必ず私申しあげますけれども、これに多額の税金をかけて年間に1ヶ月足らずの通行しかできない道路をつくったその教訓をしっかりと踏まえて道道名寄遠別線についても対応していただきたいということを申し上げて質問を終わります。</p>	<p>○ 道路課長 泉 智夫 工事請負契約の変更についてであります。現在工事中の名寄遠別線の宇遠別トンネルにおきまして、掘削面から脆弱な岩質が確認されたことから、作業時の安全を確保するための対策が必要となったことや当該地区におけるコンクリート単価が上がったことなどから、契約金額を変更するものであります。</p> <p>○ 土木局長 折谷 徳弘 名寄遠別線の整備についてであります。道では、公共事業の効果的・効率的な実施と実施過程の透明性の一層の向上を図ることを目的とした、公共事業再評価を実施してきており、当該道路におきましても、節目節目で、その必要性や妥当性を検証しながら事業を進めてきたところであり、現在も、その必要性は変わっていないことから、今後とも早期完成に向け、コスト縮減にも配慮しつつ、適時、適切に必要な対応をしながら、着実に推進してまいります。</p>